令和８年度　第５回協働のまちづくり推進委員会　会議録

日　　時	令和８年９月２５日（金）１４：００～１５：３０
場　　所	本庁舎３階第３会議室
出席委員	清水会長、小川副会長、岡野委員、渡邉委員、武重委員、瀬良委員、牧野委員
欠席委員	中村委員、吉木委員、平川委員、四本委員、二枝委員
事 務 局	市民活動推進課　太田課長、竹村、埜崎、柴山 まちづくりコーディネーター　川北
傍 聴 者	０名

[会議次第]

１　開　　会

２　会長挨拶

３　議　　題

⑴　第３次富里市協働のまちづくり推進計画の実行計画（素案）について

４　そ の 他

⑴　実施事業及びとみさと市民活動サポートセンターについて

⑵　その他

５　閉　　会

[会議概要]

	（開会） －「協働のまちづくり推進委員会の運営に関する要綱」第３条第１項により、会長が議事の進行を務める－ 次第３　議題
会長	⑴第３次富里市協働のまちづくり推進計画の実行計画（素案）について事務局から説明をお願いします。
事務局	－資料１「第３次富里市協働のまちづくり推進計画 実行計画（素案）」、資料２「第２次富里市協働のまちづくり推進計画（改訂版）実行計画抜粋」、資料３「第３次富里市協働のまちづくり推進計画計画（素案）新規項目」をもとに説明－
会長	ありがとうございました。本日は、様々な角度から御意見をいただく会となっています。各節ごとに事業が割り当てられていますが、そもそも割り当てられている事業自体が不要ではないかという御意見もあるかと思います。更に細かく申し上げますと、例えば資料１の第１節の「①とみさと協働塾の開催」については、資料２に現在の推進計画の内容が書かれています。そこには事業名があり、推進内容が３つ挙げられていますが、その中で、この項目は第２次推進計画で達成されたので不要ではないだろうか、この項目はもっと推進するべきではないか、あるいは新しい項目を追加したらどうかなど、推進内容に関する御意見があると思います。また、成果を示す指標など、他にもいくつかの観点があるかと思いますので、具体的に気づいた点についての御指摘もいただければと思います。今回、委員会で上がった意見を基に、また事務局で素案を整理し、次回委員会で改めて意見をいただく形になっています。 まず、第１節「多様な主体による活動の活性化」から御意見を頂戴したいと思います。御意見等ございましたら、自由にお話いただければと思います。大きなこと、小さなことどのようなことでも構いません。
Ａ委員	それではいくつか申し上げます。まず、第１節、①「とみさと協働塾」の中にオンライン講座を実施していると書かれていますが、オンライン講座に参加した人は何人いますか。
事務局	過去２年の記録しか手元にありませんが、オンライン講座は実施しておりません。
Ａ委員	「オンライン講座」と記載していると実施しなくてはいけなくなるの

	で、ニーズがなければ、記載せずに要望があった場合に対応する形にしていただいたほうが、他のことに重点をおけると思います。 　次に「ボランティア手帳」の件ですが、以前から申し上げているように、ボランティア手帳をどうしたら活用できるか努力している点は評価しますが、良い結果は出ていません。手帳の時代から変わってきていますので、思い切って止めてしまっても良いと思います。現在、実際に使用している方はいると思いますが、すべて使い切った方がいらっしゃれば、プレゼントを差し上げることとして、新たなボランティア手帳の普及は、一旦中止したほうがよいと思います。今後議論があるかもしれませんが、LINEなどの分野に移行するなど検討していただいたほうが良いのではないでしょうか。
会長	今「ボランティア手帳」についての御意見が出ましたが、他の委員の皆様から御意見がございますか。
Ｂ委員	ボランティア手帳は、昔のことを思い出すと「小さな親切運動」と言って、啓蒙活動の一環としてよいのではないかと思います。現在も続けていますので、新たに手帳を作ることはせず、Ａ委員もおっしゃっていましたが、現在継続している方はそのまま活用し、小さな親切運動のような啓蒙活動を継続すれば良いのではないかと思います。
Ｃ委員	ボランティア手帳の在庫はどのくらいありますか。
事務局	在庫は、１６００冊です。
Ｃ委員	ありがとうございます。ボランティア手帳はせっかくあるものですから、活用していただきたいと思います。最近特に感じるのは、子どもたちのボランティアを伸ばしていきたいということです。小さい頃からボランティアでいろいろな経験をすると、大人になってからもスムーズにボランティアに取り組めるのではないかと実感しています。今あるものをどう活用するかを検討いただければと思います。
会長	ボランティア手帳の活用方法を検討したらどうかという提案ですが、御意見はありますか。
Ａ委員	反論するようで申し訳ないのですが、今小学校でもタブレットを使用し、ＡＩ導入も進んでいます。紙媒体で行う意味はあるものの、Ｃ委員がおっしゃったように、デジタル社会に対応した形でないと子どもたちの関心が薄くなると思います。在庫があるのはもったいないですが、在

	庫に固執し、新たなデジタル化への対応が遅れることを危惧しています。
会長	先ほどＢ委員から啓蒙活動という位置づけなのではないか、ボランティアを後押しする仕組みとして手帳が導入されたのではないかとありましたが、その形が現代に合っているか議論が必要だと思います。紙媒体で残すにしても工夫が必要ではないかと思います。現状の「ボランティア手帳の活用」という取り組みよりは、ボランティア啓蒙、推進、後押しする仕組みを検討するという項目としてどこかに位置づけられたらいいのではないかと思います。
Ｄ委員	ボランティアを行う場がどこにあるか。自治会の活動も色々ありますが、なかなか参加の場がないんです。公園の草刈りや道路の草刈りは、大変な作業で、以前、公園の草刈りをしているとき、女の子が３人来て手伝いますと言ってくれたことはありました。公園の整備は、年２回実施していて、自治会に呼びかけるだけで、子どもの参加は促していません。 それから日吉台地区では、防犯連合会が防犯活動として、小学生に防犯ポスターを毎年書いてもらいます。６０枚ぐらい集まりますが、御褒美として１００円ほどの色鉛筆６本セットを渡しています。名前は伏せて貼っていますが、何枚も書く子もいて、親御さんも熱心に取り組んでおられます。 そのほか、防災訓練の際には、防災関連のグッズをお渡しし、参加を促しています。 それから今月２２日には、「ひよし秋祭り」を開催し、司会進行を小学生や中学生に担当してもらいました。それも御褒美はお菓子ぐらいです。こうした取り組みもボランティアの一部かなと思います。自分のまちの思い出作りとしても意味があり、ボランティアの場づくりを意識的に行った方が良いのは思います。
会長	今のお話には、重要なことがいくつか含まれていたと思います。１つは、「出番づくり」で、ボランティアをしたい気持ちがあるけれども、何をすればよいのかわからない、自分がやっていいのかという人を後押しする仕組みや取組みが必要だというところです。２つめとしては、すでに地域の中で様々な活動が行われていて、それらの情報や御褒美の出し方など共有される場がほとんどないというところです。これらを踏まえ、第１節（２）の新規事業として「地域のための活動への参加促進」の中に、課題解決ではなく、「地域で何かやりたい」という人を促進していく取り組みが、位置づけられるのではないかと思いました。計画に

	どこまで掲載されるか不明ですが、地域の参加を増やすためには、こうした仕掛けや工夫について交流の場で話し合う必要があると思いました。
Ｅ委員	Ａ委員がおっしゃっていた「オンライン講座」を実施していないなら内容に含めることを止めたらということですが、先ほど、子どもたちはＡＩを使っており、手帳はどうなのかという話があります。今、オンラインで日本全国の様々な講座を受けられます。県のマネジメント講座もほとんどがオンライン併用です。オンライン講座を開催するよりもオンライン講座を活用できるようにサポートすることが重要で、サポートセンターがその役割を担ってもいいと思います。ですので、実施していないから削除するというのではなく、オンラインを活用していくというのは必要だと思います。
Ｂ委員	過去にサポートセンターが実施したオンライン講座に参加しました。１回だけでは覚えない。正直覚えていないです。必要性を感じないと覚えないこともありますので、ある程度継続的に行うことも大事なのではないかと思います。最低限知っておくべき事項を押さえておいていただければよいのかなと思います。
Ｆ委員	対象をどの世代にするかですよね。なかなかハードルが高くて、覚えられないという世代もいますから。１回、２回の話ではないと思います。
会長	今のテーマは、協働塾を開催する側のお話かと思います。Ｂ委員がおっしゃったのは、受講者側の問題もあるということと、オンライン講座の受講方法、例えば Zoom の使い方などを教える取組が必要ではないかという御意見であったかと思います。それは新しい視点だと思います。また、Ａ委員の御意見のように、これまでのやり方であれば、特にやらない方向で、新しい取組を検討することはありうるのかなと思います。 他に（２）「地域コミュニティの活性化」などでいかがでしょうか。 「地域コミュニティ」では、「地域づくり協議会」以外の参加も促進していくという内容で、「地域のための活動への参加促進」が加えられています。 また、（３）「活動資金の支援・拡充」では、委員会での議論を反映した形で、「資金確保のための支援」が新しく加えられたところですが、資金確保を幅広く、市の活動支援補助金のほか、民間の資金に応募できる力を支援するという取り組みが追加されています。 何か、御意見はありますか。

各委員	－特になし－
会長	引き続き、第２節「情報の収集・発信の充実と交流の促進」について、気がついたところなど御意見をいただければと思います。まず（１）「活動につながる効果的な情報発信の充実」からお願いいたします。
Ａ委員	ホームページの充実と情報発信ツールの運用について、以前から主張しますが、私は、富里市の LINE の登録者数を増やすために様々な場で LINE のＰＲをしています。Instagram、Facebook、メール、LINE が挙げられていますが、LINE の登録者数が一番多いと思います。年配の方も LINE を利用している人が多く、操作方法がわからなくてショートメールを使っている人もいますが、富里市の LINE のメインページを見ると情報発信のコンテンツが多くあります。協働に関する情報は載っていないし、子育てに関してもすぐには出てこない。これらを充実させることで、一つの LINE の窓口から多様な情報にアクセスできるのではないかなと思います。変更には費用がかかるようなので、オンライン講座の充実もありますが、現状を踏まえると、新たな取組に踏み出せないこともあると思います。そのことから予算を増額してもらい、市民活動推進課だけでなく子育て、高齢者関連の部署とも協働しながら、情報発信の部分を充実できれば、市民に届く情報も増えると思いますし、情報が一本化されれば、利用する人も増えてくると思います。双方向につながっていくこともあると思います。
会長	「協働専用情報発信ツール」の推進内容をリニューアルさせるイメージだと思います。市公式ホームページとのリンクや紙媒体との連携など、クロスメディアによる効果が見込めるとの御意見だと思います。
Ｄ委員	ホームページを立ちあげること自体は、比較的簡単で費用もドメインの料金が月数千円のみです。私も実際に作成しましたが、セキュリティーや個人情報などがあり、中断した経験があります。パソコンで見るのが一番見やすいが、スマホでも十分情報発信ができます。自治会活動で流す情報は多いですが、若い世代は紙ではなく、デジタルでほしいと言われます。日吉台では、例えば秋祭りを開催するというと、LINE グループで、５～６０人が登録して情報交換を行っています。瞬時に伝わるし、非常に便利です。会議をしなくても共有できることもあります。また、大事な通知は、プッシュ通知で届くので、メールより簡単です。たくさん情報が入ってきて整理するのは大変ですが、非常にいいことだと

	思います。
会長	第２次推進計画の協働専用情報発信ツールの運用についての推進内容では、異なる視点が混在している印象があります。市民活動団体が自ら発信し、市民活動団体同士で情報を共有するという部分も含まれていますが、成果を示す指標が、Facebook や Instagram の登録件数となっています。これらはサポセンが運用している媒体の登録件数ですので、区分けする必要があると感じました。この部分は、推進内容を精査する必要があると思います。 それから「協働専用情報発信ツールに運用」に当たっては、紙媒体がいいのか、Facebook、Instagram、LINE のどれが適しているのか、選択できるようになることが重要なのだと思います。
Ｄ委員	日吉台防災連合会のホームページを作成しました。資料２の３３ページの推進内容に、市公式ホームページとのリンクと記載があります。防災連合会のページに市のホームページもリンクしています。市の避難所情報が見れる状況にしています。こういう連携であれば、デジタルに詳しくなくてもお金をかけずにできると思います。
会長	具体的な例として、市公式ホームページと民間のページのリンクのお話だったと思います。 もう一点、私からお話しさせていただきたいのですが、①「市民活動の事例紹介」についてです。「事業者の地域活動の紹介」と事業統合をしたことについては賛成ですが、タイトルが気になっています。事業者も含まれているのに「市民活動」としてよいのか、条例上の位置づけで事業者がどのような扱いになっているのかにもよりますが、例えば、「協働事業の紹介」、「協働の活動紹介」など、「市民活動」ではない方がよいと思いました。また、事業者の地域活動を紹介されている数が、すごく少なく、第二次推進計画では、５０社を目標としているところ、昨年度の実績は、４社だったと記憶しています。その状況から事業者は、「何を取り組むのか」などまだわからないという状態なのかなと思います。現状は、市内での地域活動をしている事業者の取材ですが、市外の活動でも富里のモデルとなる活動を紹介することを入れてもよいのかなと思いました。 それでは、次の（２）「多様な主体の交流の促進」、（３）「調査分析機能の充実及び活用」についてはいかがでしょうか。
Ｅ委員	多様な主体の交流の推進についてですが、第２次推進計画では、「中間支援組織などとの連携」ということで、色々な機関、主体と連携する

	ことが書かれていました。「中間支援組織」は、何を指しているのか。推進内容を見ると、ボランティアセンター、社協、生涯学習課などが「中間支援組織」を指していたのか。市役所の様々な課と連携し、分野を横断して何かしていくことには価値があるとは思いますが、「中間支援組織」という表現が曖昧に感じますので、第３次推進計画では整理したほうが良いと思います。
会長	趣旨として異議があるというわけではなく、「中間支援組織」という表現を整理する必要があるという御意見でよろしいでしょうか。推進内容にある社協、ボランティアセンター、サポートセンター、生涯学習課という担当課もあり、それぞれが中間支援機能を持っています。もっと適切な表現があるのではないかという御意見です。
Ａ委員	第２節（２）④「中間支援組織との連携・強化」と第３節（２）②「異分野コーディネーター交流ネットワークの構築」がありますが、広く見れば、同じに捉えられるので、統合するとすっきりすると思います。
会長	第３節の新規事業で提案がされていますが、Ａ委員から統合してもよいのではないかとの御意見が出ましたが、いかがでしょうか。
Ｅ委員	私は事務局の説明を聞いて、中間支援組織と異分野コーディネーターは、全く違うものだと感じました。異分野コーディネーターは、生活支援、生涯学習、子育てなど多様な分野のコーディネーターがいるなかで、そういう人たちが交流し、自分が持つ分野の地域課題共有することは大事なことだと思います。ですので、第２節には、中間支援組織という表現は別として市役所内の連携だけでなく、多様な主体との連携を進めていくということであって、異分野コーディネーターの交流は、また別のものだと思います。
Ａ委員	先ほど発言したのは、推進内容として統合したほうが良いのではないかということです。
会長	確かにいずれも異分野をつなぐ体制整備になると思います。「中間支援組織などとの連携・強化」を第２節ではなく、第３節に位置付け、「中間支援組織」や中間支援機関が入り、実働で動いているコーディネーターが含まれるという整理もあるかと思います。Ａ委員のおっしゃっていることは、広い視点で「異分野をつなぐという体制づくり」とし、一つは他機関連携や中間支援、もう一つは異分野コーディネーターの関

	係を整理する形と考えられます。ここは引き続き検討すべき事項だと思います。ほかに御意見はございますか。
各委員	－特になし－
会長	それでは、第３節「協働・共創の推進体制の強化」についてはいかがでしょうか。 （１）①「市民活動サポートセンター機能の強化」についてですが、第２次推進計画の推進内容では、これまでの実績によりかなり盛りだくさんになっていました。前回までの委員会の議論を踏まえ、整理してスリム化されたと思います。コーディネーター関連で、７つの支援力があり、相談対応力、調査・情報収集力、情報の編集・発信力などについては、だいぶ充実してきている印象があります。今後は、コーディネート、ネットワーク力に重点を移していく方向性でいいのかなと思います。また、同じく前回の委員会で出された、実際の相談件数が少ないのではないのか、という御意見やどのような内容をカウントするのか、などのご意見に関してセンターが「箱」として持っている性質、足を運び易くなる場づくりや雰囲気づくりが重要であるという意見もありました。こうした部分を踏まえた推進内容を検討する必要があると思います。 次に（１）③「地域課題を整理する円卓会議の検討・実施」については、タイトルを変更した方がよいのではないかと思いました。「地域課題」という表現が引っかかり、富里全域を指す「地域」と地域コミュニティとの区別が曖昧であること、また、関谷先生の講義でもありましたが、これまでの「地域課題」から「地域愛着系」など街への関わり方が以前と変わり多様になってきていることを踏まえ、「課題」ではなく「こういうことをしたい」をテーマとする会を開催してもいいのかなと思いました。「課題を整理する」というより、「協働のテーマを整理する円卓会議」、「協働につながる円卓会議」など協働のまちづくりにつなげる方向性が示せればいいかなと思いました。また、第２次推進計画の推進内容を改めてみると、行政の各部署が協議する機会となっていて、範囲が少し狭いと思います。今後は、他機関連携だけでなく、地域に関わるいろいろな主体、例えば、子育てサークルの方、保育所の先生、民間の方など、多様な主体が参加できるように幅広く捉え、協議をしたり、何かを決めることまでしなくてもよいと思いますが、行政だけでなく多様な主体でできるようになればいいと思います。
Ｄ委員	第２次推進計画の円卓会議をみると、市役所内の協議という印象が強いです。主な関連事業には、地域づくり協議会等も挙げられています

	が、無関係ではないと思います。計画上では３０件を目標に掲げていましたが、具体的にはどういうものを想定していたのでしょうか。第１次推進計画では２４件あったようなので、具体的にどのようなものをされているのか知りたいです。
会長	円卓会議をどう捉えるかという話にもなりますが、一般的に円卓会議は、例えば、この会議のように７人程度のメンバーで、テーマを仮に子育てについて考えると設定します。行政の担当部署、保育所の人、学童とか子育てに関連する人がそれぞれ当事者として議論に参加し、一般の参加者が周りにいます。円卓の場は、議論、意見交換、情報共有をする場であって、何かを決める場ではありません。その円卓の場でいろいろな情報や意見が出された後、それを聞いてどう思ったかを、フロアの参加者が周りの人と話し合いをして、それを円卓の場にフィードバックし、議論を展開します。そこから新たな発想が生まれ、行動していくというものが、円卓会議です。テーマ設定や登壇者は、戦略的に選択されることになります。周りの方は自由参加ですけど、登壇者は関係者、当事者であって、周りは応援団的な存在です。現在カウントされている件数は、円卓会議そのものではなく、まちづくり交流会がカウントされていると認識しています。
事務局	現在、まちづくり交流会の開催回数をカウントしています。
会長	今のところは、まちづくり交流会を円卓会議と見立てているとのことです。
Ｄ委員	区長会で、「なんでも座談会」を企画し、日吉台では１０月に開催されます。共通の課題について意見交換する場で、こんなことで困っているとか、そういう話が出るのではないかと思っていますが、色々な意見が出ることを期待しています。
会長	今後、円卓会議については整理し、表現を明確にする必要があると思います。他にはいかがでしょうか。
Ｅ委員	今までの「市の推進体制」にある円卓会議から、第３次推進計画では、「協働・共創のプラットフォームの構築」に円卓会議が位置づけられているので、第２次推進計画の推進内容とは異なる観点で進めていくという認識でいいですね。
会長	そのようにしていただければと思います。円卓会議は、多様な主体が

	やりたいことや取り組むべき課題を共有する場と位置づけ、３節（１）の「プラットフォーム構築」に入るのか、あるいは３節（２）の「多様な主体による協働意識の向上」に入るのか、それとも体制整備そのものでないのであれば、第２節の（２）「多様な主体の交流促進」に入れるべきなのか、事務局に検討していただけるといいのかなと思います。
Ａ委員	円卓会議の進行は市民活動推進課がするのか。
事務局	まだ具体的には決まっているものはございません。先ほどＤ委員からお話がございました今年度地区ごとに行っている「なんでも座談会」の事例を御紹介します。座談会では、市民活動推進課の職員はあくまでも記録係として参加し、地区の区長の代表の方に司会進行を担当していただいております。先日、第一小学校、根木名小学校の２つの学校区を対象に実施しましたが、進行もよかったこともありますが、２時間話題が途切れることなく会が行われました。
会長	様々な方法があるということです。そのほかいかがでしょうか。
各委員	－特になし－
会長	最後に第１節から第３節で何かございますか。
各委員	－特になし－
会長	ありがとうございました。また、その他として委員の皆様からございますか。
各委員	－特になし－
会長	それでは、議題はすべて終了となりますので、進行を事務局にお返しします。
事務局	ありがとうございました。 次に次第４、その他に移ります。 （１）実施事業及びとみさと市民活動サポートセンターについて －実施事業の報告及び案内－ ・市民活動支援補助金３期募集 ・とみさと協働塾 ・とみさと市民活動サポートセンターの利用状況

	（２）その他 －連絡事項－ ・第３次富里市協働のまちづくり推進計画実行計画（素案）に対する意見の提出依頼 締切：９月３０日（水） ・第６回協働のまちづくり推進委員会について 日時：１０月１６日（金）１０時から 会場：すこやかセンター２階会議室１ 資料は、事前に郵送予定 御確認等はございますか。
各委員	－特になし－
事務局	ないようですので、以上をもちまして、令和８年度第５回協働のまちづくり推進委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。 （閉会）